



民主主義の「質」に関する比較分析 (一)	四	小 岡 良
カナダにおける信仰の自由のありかた	四	田 陽 良
— 宗教的独自性・平等・統合 —	三	加 藤 普 章
民主主義の「質」に関する比較分析 (二・完)	五	小 岡 良
特集 死刑制度と被害者支援について考える	一	田 陽 良
再考・死刑制度と被害者支援	六	井 田 良
— 各論文の解題を兼ねて —	六	
死刑存廃論における一つの視点	六	高 橋 則 夫
— 応報的正義 (Retributive Justice) から修復的正義 (Restorative Justice) へ —	三	
わが国の死刑適用基準について	六	原 田 國 男
日本における被害者支援と死刑	六	太 田 達 也
ドイツにおける被害者支援活動	六	ペトラ・ホーン 堀 田 晶 子 / 訳
ガバナンスに関する日米比較 (一)	六	小 林 良 彰
フランスにおける知的財産と占有	六	岡 田 陽 介
現代オセアニア政治・社会論 (序説)	六	麻 生 邦 典
「物語」という「政治」	七	関 根 政 美
	七	大 石 裕

帝国政治から国際政治へ	.....	七	山本信人
—一九二〇年代東南アジアにおける地域国際システムの転換—	.....	七	澤井敦
読み換えられる不安—ジグムント・バウマンの「不安の社会学」をめぐって—	.....	七	塩原良和
エスニック・マイノリティ向け社会政策における時間／場所の管理	.....	七	鶴木眞
—オーストラリア先住民族政策の展開を事例に—	.....	七	山腰修三
「放送の公共性」再考—メディア環境の変容と公共圏概念の展開—	.....	七	伊藤陽一
マスメディアと国際テロリズムの危機管理	.....	七	小川浩一
世論と空気—脱原発論議をめぐって—	.....	七	本多周爾
階層格差と規範変容試論	.....	七	藤田真文
文化帝国主義という言説	.....	七	飯塚浩一
マス・メディアの言説分析の可能性	.....	七	三野裕之
—言語行為論とコミュニケーション行為論の視点から—	.....	七	伊藤高史
英国テレビドラマ「イーストエンダーズ」の制作にみる「大衆性」と「公共サービス放送」の理念	.....	七	真鍋一史
ソーシャルメディアと民主主義—批判的アプローチ—	.....	七	小田陽介
メディアの集中と日本のメディア産業の課題	.....	七	岡田邦
価値観の研究の視座—経緯・課題・展望—	.....	七	小田陽介
ガバナンスに関する日米比較(二・完)	.....	八	水津太郎
代償的取戻権の意義と代位の法理—責任法的代位の構造と評価—	.....	八	水津太郎

特集 日本・ブラジル 消費者法の現状と展望 (一)

解題 国際シンポジウム『日本・ブラジル 消費者法の現状と課題』の開催とその成果	九	池田真朗
ブラジル消費者法の概要	九	カズオ・ワタナベ 前田美千代/訳
日本版クラスアクションの立法について	九	三木浩一
質疑応答	九	三
— 民事訴訟法関係の問題に関して —		
韓国における民主主義の「質」に関する計量分析 (一)	十	小林良彰 金兌希
汪精衛と大アジア主義—その継承と展開—	十	嵯峨隆
韓国における民主主義の「質」に関する計量分析 (二・完)	十一	小林良彰 金兌希
再訴事案の法的規律	十一	川嶋隆憲
— 英米法理論からの比較法的アプローチ —		
仮釈放の法定期間と正当化根拠	十二	太田達也

資料

「親教育指針書」(韓国「親教育共同研究会」(二〇一一年四月刊行))(翻訳)	一	犬伏由子/監修 田中佑季/訳
韓国「入養特例法」(法律第一一〇〇七号、二〇一一年八月四日全部改正、二〇一二年八月五日施行)(翻訳)	五	犬伏由子/監修 田中佑季/訳



五三三	取締役再任前の事情および取締役未就任時の事情による解任の訴えの可否	四	宮島 司
五三四	会社の経営を支配していたと考えられる事実上の取締役に對して、第三者に對する責任が認められた事例	五	鈴木千佳子
五三五	内紛学校法人理事解任決議が無効とされたが、無効確認の訴えの利益が否定された事例	六	加藤 修
五三六	会社の行った会計処理について、公正なる会計慣行に適合しない違法性を認めることはできず、したがって実施した配当には配当可能利益を欠くような違法が認められないとされた事例——三洋電機違法配当事件——	八	藤田 祥子
五三七	一、監査役選任議案についての監査役会の同意無効と株主總會決議の裁量棄却 二、取締役会の決議方法については、必要な議決権数に達したことが明白になつた時に表決が成立する	九	山本爲三郎
五三八	特例有限会社における取締役の監視義務違反に基づく對第三者責任	十	来住野 究
五三九	公正なる会計慣行と銀行の支援の合理性（日債銀粉飾決算事件差戻審判決）	十二	長畑 周史
五四〇	不動産売却を依頼された仲介業者によるいわゆるサヤ抜き行為について依頼者側からの損害賠償請求が認められた事例	十三	杉田 貴洋
〔最高裁判事事例研究〕			
四三二	平二四一（民集六六卷三号一一六三頁）	二	小原 将照
四三三	平二二三（民集六四卷七号一七一九頁）	六	中島 弘雅
四三四	平二四二（民集六六卷七号三一二三頁）	八	村田 典子
四三五	平二二四（民集六四卷二号四九八頁）	九	渡辺 森児
四三六	平二二五（民集六四卷四号一一〇七頁）	十	杉本 和士

〔下級審民事事例研究〕 ..... 民事訴訟法研究会

66 将来の介護費用の損害賠償について、被害者が一時金賠償方式による支払を求めたのに対し、定期金賠償方式が相当であるとした第一審判決が、控訴審判決において一時金賠償方式が相当であるとして、変更された事例  
福岡高裁平成二三年一月二二日判決（福岡高裁平成二三年(ホ)第二四七号・第七四八号）、損害賠償請求控訴・同附帯控訴事件、判例時報二二五一号三二頁  
三 川 嶋 隆 憲

67 公正取引委員会が調査の過程で収集した資料について、インカメラ手続を経て、証拠調べの必要性及び民法二二〇条四号口該当性が一部認められた事例  
文書提出命令申立事件（大阪地裁平成二四年六月一五号民事第四部決定）、判例時報二一七三号五八頁、判例タイムズ一三八九号三五二頁  
三 五 河 村 好 彦

〔民集未登載最高裁判事例研究〕 ..... 民事訴訟法研究会

36 普通預金債権のうち差押命令送達後同送達の日から起算して一年が経過するまでの入金によって生ずることとなる部分を差押債権として表示した債権差押命令の申立てが、差押債権の特定を欠き不適法であるとされた事例  
平成二四年(特)第一号債権差押命令申立て却下決定に対する執行抗告棄却決定に対する許可抗告事件（最高裁平成二四年七月二四日第三小法廷決定・裁時一五六一号三二三頁、判時二一七〇号三〇頁、判タ一三八四号一六頁、金法一九六一号九四頁、金判一四〇八号二六頁、金判一三九七号八頁）  
一 五 山 木 戸 勇 一 郎

37 宗教法人の所有する土地の明渡しを求める訴えが、法律上の争訟に当たらず、不適法とされた事例  
土地明渡等、代表役員の登記抹消手続請求事件 最高裁平二〇年(受)第一五六五号、平二一年九月一五日第三小法廷判決（裁判所時報一四九二号一六頁、判例時報二〇五八号六二頁）判例タイムズ一三〇八号一七頁、金融法務事情一八八八号六〇頁）  
四 六 三 上 威 彦

38

詐害行為取消権の訴訟物である詐害行為取消権は、取引債権者が有する個々の被保全債権に対応して複数発生するものではない。(補足意見がある。)  
最高裁平成二二年一〇月一九日第三小法廷判決(平成二二年(受)第七〇八号詐害行為取消等請求事件)金融・商事判例一三五五号一六頁、上告棄却、第一審神戸地裁尼崎支部平成二〇年七月一五日判決(金融・商事判例一三五五号二〇頁)、控訴審大阪高裁平成二二年一月二三日判決(金融・商事判例一三五五号二二頁)

五 春 日 偉 知 郎

39

将来の給付の訴えを提起することのできる請求としての適格を有しないものとされた事例  
最高裁平成二四年一二月二一日第二小法廷判決(所有権移転登記手続、持分移転登記抹消登記手続等、持分権確認等請求事件、最高裁平二三(受)第一六二六号、一部破棄自判、一部上告棄却)最高裁判所裁判集民事二四二号一一七頁、裁判所時報一五七一号四頁、判例時報二二七五号二〇頁、判例タイムズ一三八六号一七九頁、金融法務事情一九六五号一二三頁

十 三 四 三 木 浩 一

紹介と批評

ロビン・コーエン著(駒井洋訳)

『新版グローバル・ディアスポラ』

三 七 関 根 政 美

M・トシリイ及びT・ラビーセペレ編

『犯罪と司法第四〇巻―北欧における犯罪と司法』

十 一 五 坂 田 仁

石川明・石渡哲・芳賀雅顯編

『EUの国際民事訴訟法判例Ⅱ』

十 三 宍 粟 田 陸 雄



特別記事

慶應義塾大学法学部法学研究所講演会「アラブ民主化の行方―エジプトを中心に」	一
バルキス・サイドゥ君学位請求論文審査報告	一七
池上萬奈君学位請求論文審査報告	一八〇
法学研究第八十五巻（自一号至第十二号）総目次	二二〇七
麻生典君学位請求論文審査報告	三八九
平野龍二君学位請求論文審査報告	三〇一
白鳥潤一郎君学位請求論文審査報告	三二〇
呉茂松君学位請求論文審査報告	四九七
廉舒君学位請求論文審査報告	四一〇七
慶應義塾大学法学部法学研究所講演会「『地域主権改革』のゆくえと地方自治の課題」	五六九
生田正輝先生略歴・主要業績	七四七
久保田哲君学位請求論文審査報告	九八
鎌原勇太君学位請求論文審査報告	九九四
鄭恵仁君学位請求論文審査報告	一一三
内海朋子君学位請求論文審査報告	一二九
小沢奈々君学位請求論文審査報告	一七一
陳宇君学位請求論文審査報告	一八三
速水淑子君学位請求論文審査報告	二七

追悼文

生田正輝先生の思い出  
生田先生の思い出

七四九 霜野壽亮  
七四三 田中康夫